

ICT活用による分野横断型実験授業の取組み

昭和大学歯学部歯学教育推進室

片岡 竜太

ICT活用による分野横断型実験授業の取組み

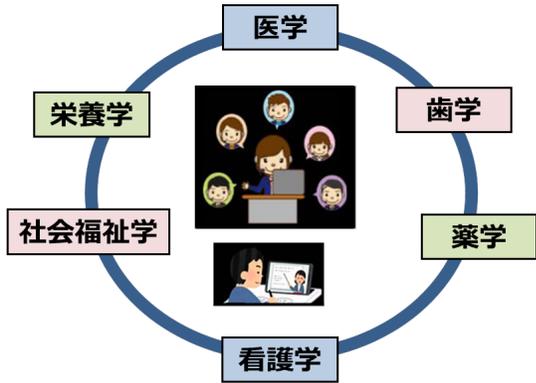
問題解決力養成を目的に、医療・福祉・栄養・情報コミュニケーション
6分野の学生2グループが、Zoomによるテレビ会議とLineで意見交換
し、コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考える授業を5回
行った。その成果と問題点についてお話する。

分野横断型の問題発見・課題解決とは？

各分野の問題発見・課題解決とどのように異なるのか？

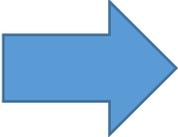
分野横断型実験授業

医療系グループ



テーマ

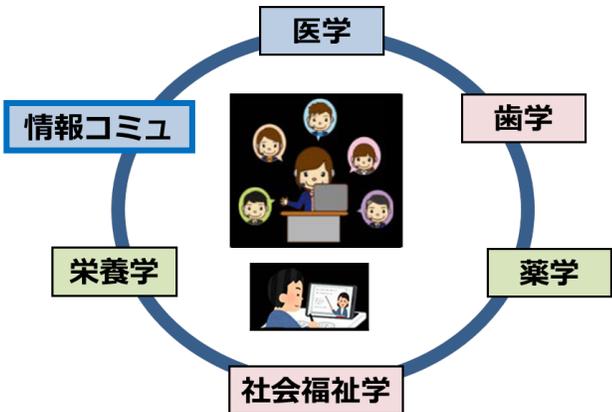
各分野の出番がある医療、健康増進に関するシナリオ



課題解決

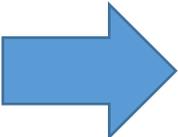
地域包括ケアの提案

医療系 + 情報コミュニケーション



テーマ

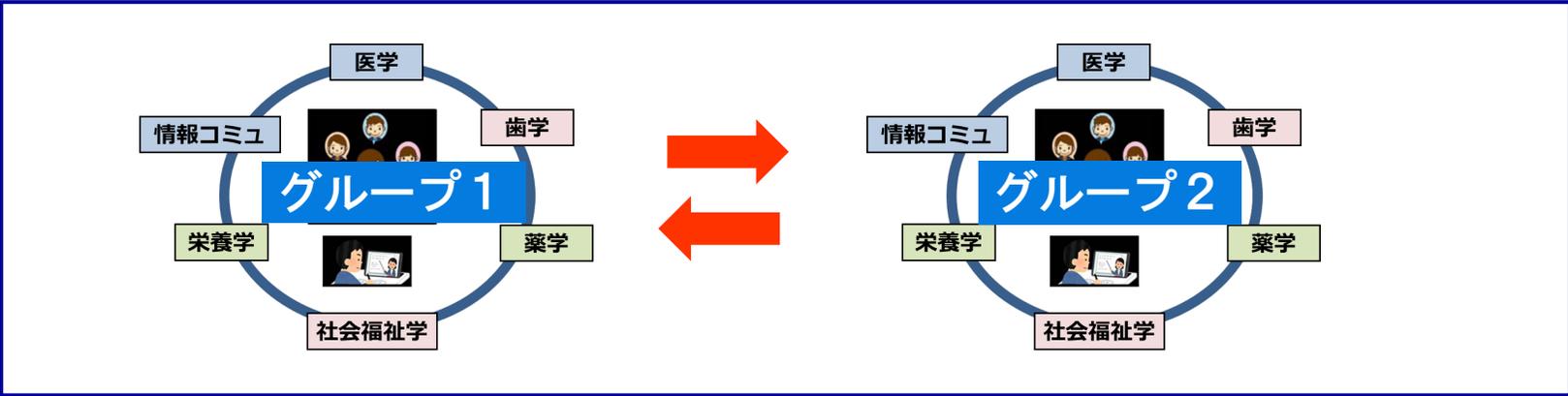
コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考える



課題解決

?

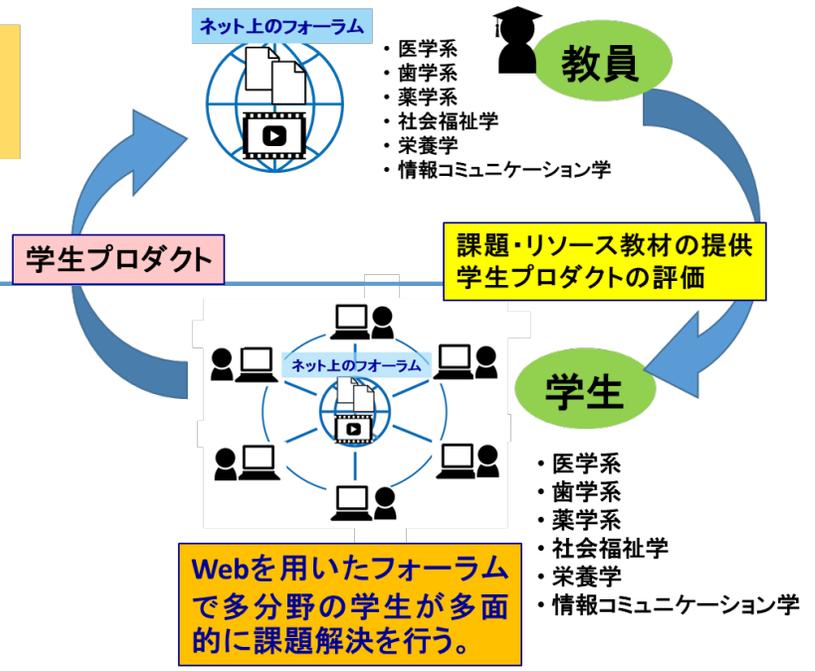
参加学生とネット授業



東邦大学
昭和大学
日本社会事業大学
明治大学
神奈川工科大学

1. ネット上で有識者間でコロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考えるための課題とリソース教材を作成する。

2. Web上で課題について医療、福祉、栄養、情報コミュニケーション学を含む多分野の学生が多面的な議論と考察を行う。



授業の進行とプロダクト、提出物

9/16 (木)

1回目

オリエンテーション テーマ認識

- 目標書き出しシートの記入。アイスブレイキング
-

9/30 (木)

2回目

問題発見、整理

- コロナ禍の実体験を中心に、国内外で興味がある主なコロナ禍の社会現象を調べ、共有する。
-

10/7 (木)

3回目

問題点の優先順位の決定 課題設定

- コロナ禍と共存していく上での本質的な問題は何か議論する。
 - 課題を決定する。
-

10/21 (木)

4回目

解決策の検討

- 課題に対する対応策、解決策を検討する (グループプロダクト作成)
-

11/4 (木)

5回目

解決策の説明

- 2グループが合流して解決策の構想を発表し、討議を行う。
- 教員からの意見を反映して、グループプロダクトを完成する。
- 各自、学修レポート「コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活について」を提出する。
- ポートフォリオを記入する。

Webベース分野連携PBLのプラットフォーム

ICT学修支援システム



Google

ドキュメント

スライド

zoom

LINE

同期/非同期
ネット授業

掲示板

ソフト不要
インターネット
接続があれば
OK

学生用ガイド

ICT活用による分野横断型授業

学生用ガイド

- 学修の進め方
- プロダクト作成
- 提出物と提出期限

ICT学修支援システムについて

URLからICT学修支援システムにアクセスできます。(QRコードをクリックしてアクセスすることもできます)



トップ画面

ドキュメント

ICT活用による分野横断型授業

ネット授業2021年9-11月

将来が予測できない時代に社会の課題を解決していくためには、答えが定まらない具体的な問題を、多面的に捉えて解決を目指すグループ学修が、生涯学習につながるアクティブラーニングとして極めて重要である。本授業では、保健、医療、福祉介護、栄養、法律、情報コミュニケーションの学生グループが、ICT学修支援システムを活用して、「コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活」に取り組む。

※学生用ガイドをご覧ください。 [2021学生用ガイド9-16-21\(最終\).pdf](#)

※掲示板はこちらです: <http://gekogeko.lms.ac/mod/forum/view.php?id=10>

スケジュール

「内容」のチップ(アイコン)をクリックすると、該当する日の授業内容、ネット会議ルーム(zoomのアドレス)、教材などを閲覧できます。

回数	内容	日付	時刻
1	オリエンテーション	9月16日(木)	17:30~
2	問題発見、整理	9月30日(木)	17:30~
3	問題点の優先順位の決定、課題設定	10月7日(木)	17:30~
4	課題設定、解決策の概要を決定	10月21日(木)	17:30~
5	グループプロダクト	11月4日(木)	17:30~

問題発見、整理

9月30日(木) 17:30~

- コロナ禍の実体験を中心に、国内外で興味がある主なコロナ禍の社会現象を調べ、共有する。
- 問題を個別に書き出し共有した上で、コロナ禍と共存していく上での本質的な問題は何か議論する。
- 問題を整理する。

ネット会議ルーム(zoom)

- [zoom](#) [ここをクリックして、17:30に入室してください](#)

コロナ禍で興味がある社会問題(グループ)

- [グループ1\(スライド一覧\)](#)
- [グループ2\(スライド一覧\)](#)

学生用ガイド (PDF)



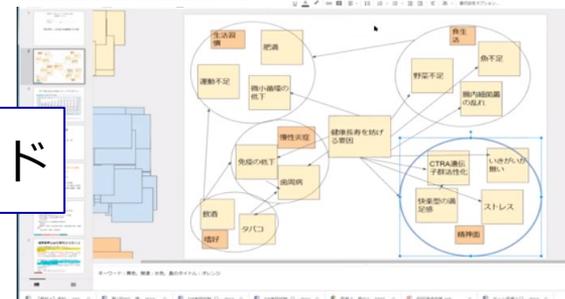
クリックすると、該当する日の授業内容、ネット会議(zoomのアドレス)、教材などを閲覧できる。

zoom



途中から、グループ毎に、ブレイクアウトルームに入室していただきます

スライド



LINEオープンチャットの活用

実体験を通じて興味がある社会問題（個人）

- コロナ禍における障がい者雇用
- 新型インフルエンザ等対策特別措置法と緊急事態宣言について
- 看取りができない家族
- 食と健康の問題
- SNSでのデマ横行について
- コロナ感染者数の報道について
- コロナワクチンに対する報道の仕方
- コロナ禍における同調圧力
- 生活リズムの乱れがメンタルヘルスへ及ぼす影響

学生プロダクトの一部

2回目

問題発見、整理

コロナ禍で医療・健康生活を続ける上で重要な「問題」(グループ)

コロナ禍で医療・健康生活を続ける上で重要な「問題」	学修課題
メディア×心理 「コロナ禍におけるメディアが及ぼす影響」	<ul style="list-style-type: none">・国民がどんなワードチョイスに引かれるのか？・注視すべきワードは何か？ (医療者として⇒ex.指手消毒などの感染対策)
食 「コロナ禍における食生活の現状と問題点」	<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍による生活様式の変化・自宅療養者の食事状況について・ex.フレイル、生活習慣病
雇用・補償 「コロナ禍における雇用・補償の現状」	<ul style="list-style-type: none">・失業者関連・補償について

ワクチンの問題 (ワクチンパス、行政のデジタル化、デマ)	<ul style="list-style-type: none">・情報リテラシーの差について・デマの根源・行政、機関のデジタル化の遅延
コロナ禍での心身の健康管理	<ul style="list-style-type: none">・フレイル・孤食がメンタルに及ぼす影響・受診控えの現状、影響

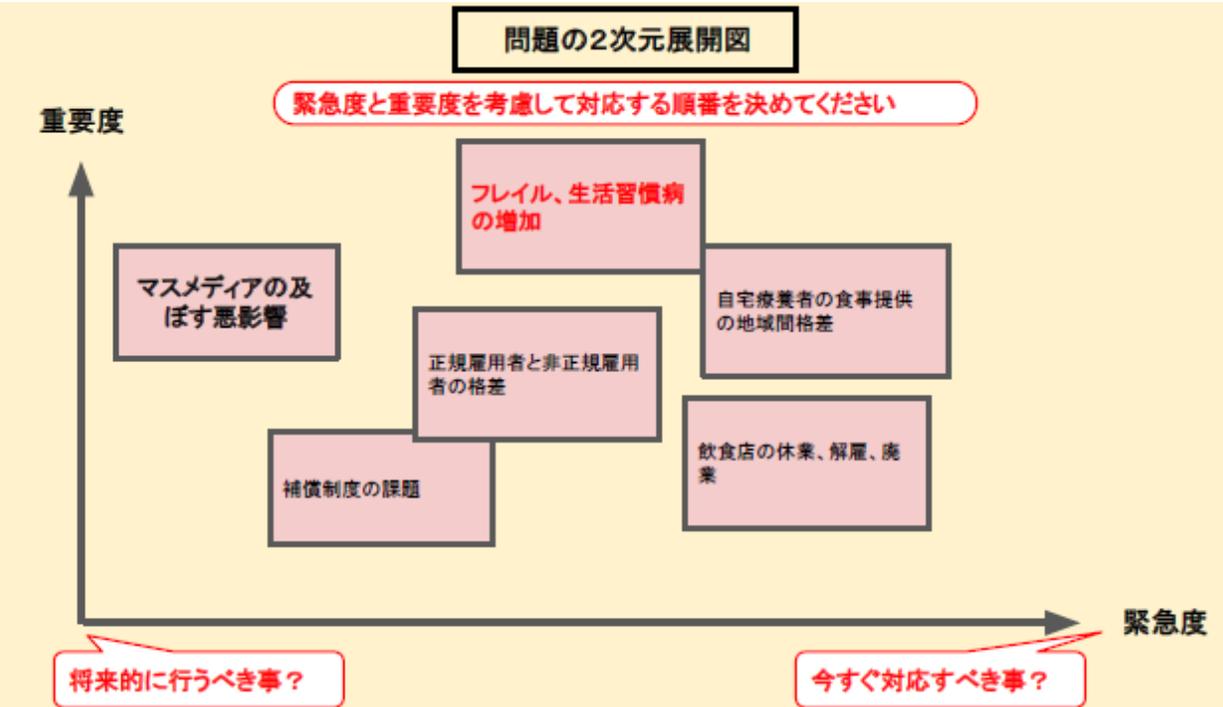
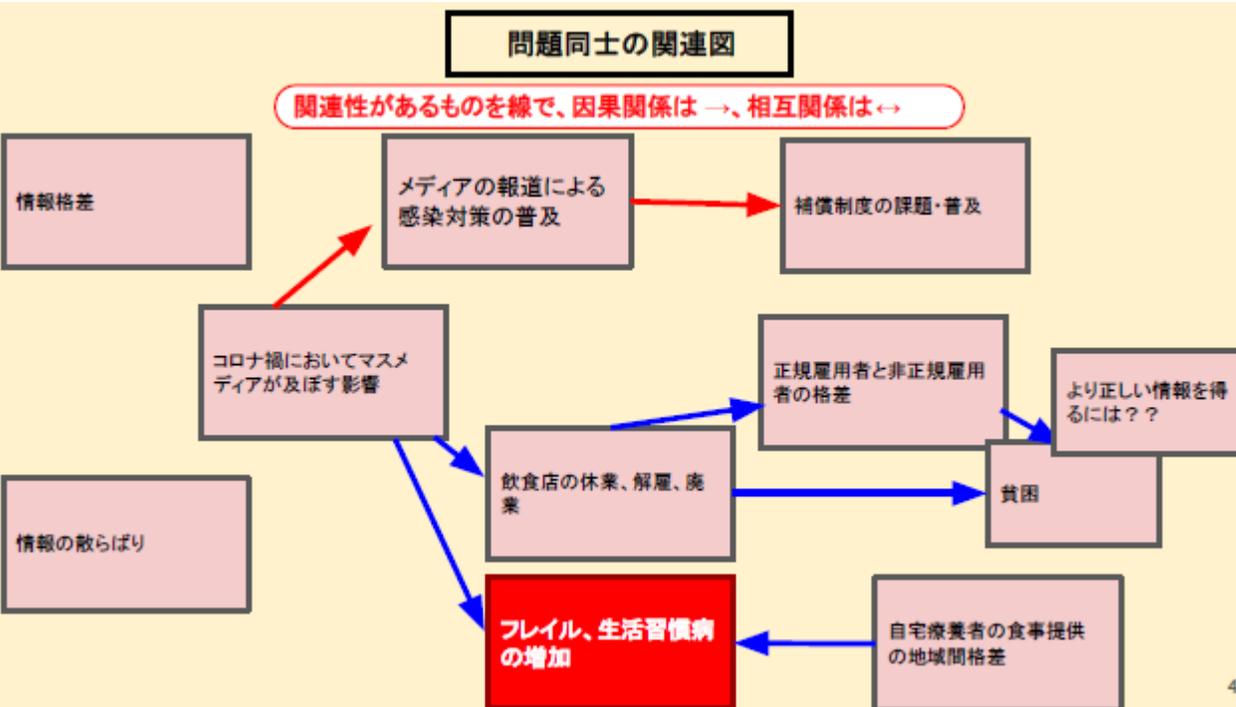
メディア、心理、情報リテラシー、食、雇用など幅広い問題を抽出

学生プロダクトの一部

3回目

問題点の優先順位の設定

課題設定

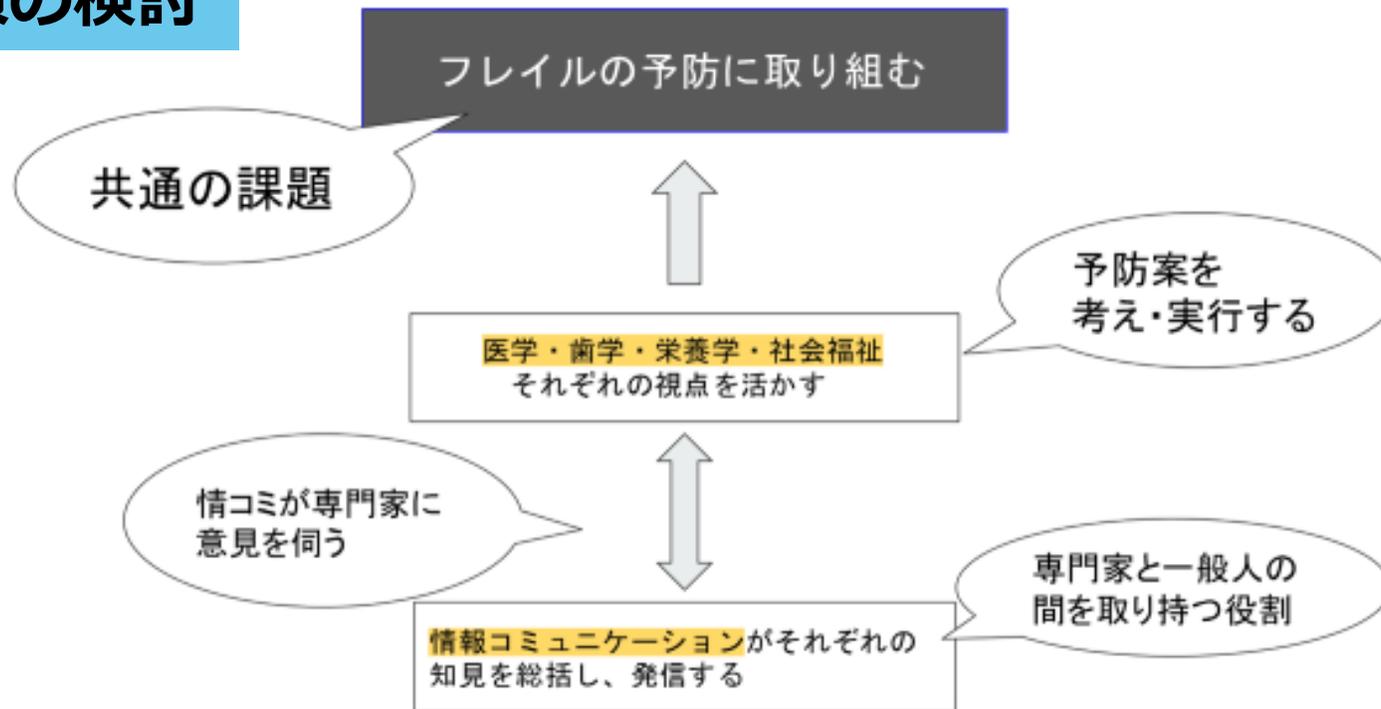


学生プロダクトの一部

4回目

解決策の検討

「5学部連携の簡略図」



6

—
どうやったら各学部の予防策を
必要な人に届けられる？

会！！！！

→ 講演

講演会「WIMフェア」でなにをするの？

そもそも...

- フレイルとは？生活習慣病とは？それぞれの概念とは何だ！
- フレイル、生活習慣病の予防ってどうすればいいか？

を知る必要がある！

- 各専門家と(代表)参加者の座談会
- 体操などの実践
- 自分の状態を把握するための自己チェックシートを活用した講義

...などテーマごとに講演会を設定。

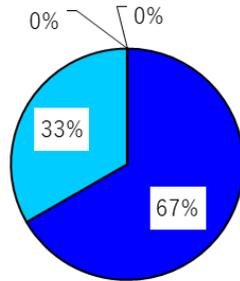
開催方法はweb形式(大人数) or 施設ごとに小規模セミナーチェックシートを用いた講義

—
講演会に来る人って
興味ある人だけじゃない？

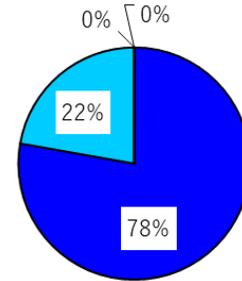
どうすれば興味ない人にも伝えられる？

学生アンケート結果

今回のPBLによって、**学修意欲が高まった。**

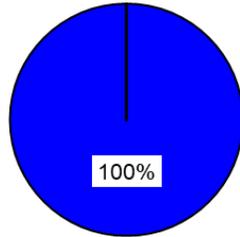


他のグループメンバーとのディスカッションで問題への**興味がさらに深まった。**

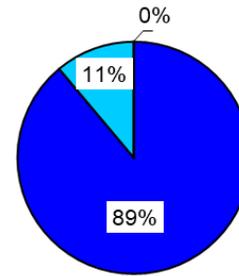


- とてもそう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- まったくそう思わない

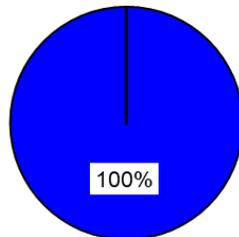
他学部（科）学生とディスカッションをしたことは、自分にとって**よい刺激**だった。



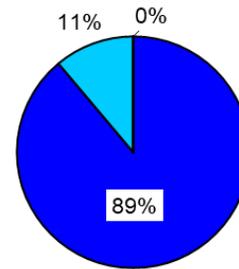
今回のPBLを通じて、**コミュニケーションの重要性**が理解できた。



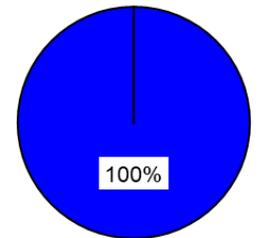
他学部（科）学生は、今の**自分**にない**専門的な知識**を所有していた。



他学部（科）学生と**協力してグループプロダクト**を作成することができた。



今回のPBLが終了して**充実した気持ち**である。



学際性教育 (Interprofessional education)

- 「専門性」と「専門性」の関連性を考えること
- 個々の専門職が、他の専門職と向き合うとき、どうやって向き合えば良いか、その意味を考えること

Leathard A 1994,2003

学際性教育 (Interprofessional education) の目標

1. 「誰のためのチーム」なのか合意がとれている
2. 他の専門性を理解することで**自分の専門性を客観視**できる
3. チーム全体の目標と動きの中で**自分の役割と専門性を位置づける**ことができる
4. 他の専門職に対して**リスペクト**(尊敬)の視点を持つことができる

Leathard A 1994,2003

学際性教育 (Interprofessional education)

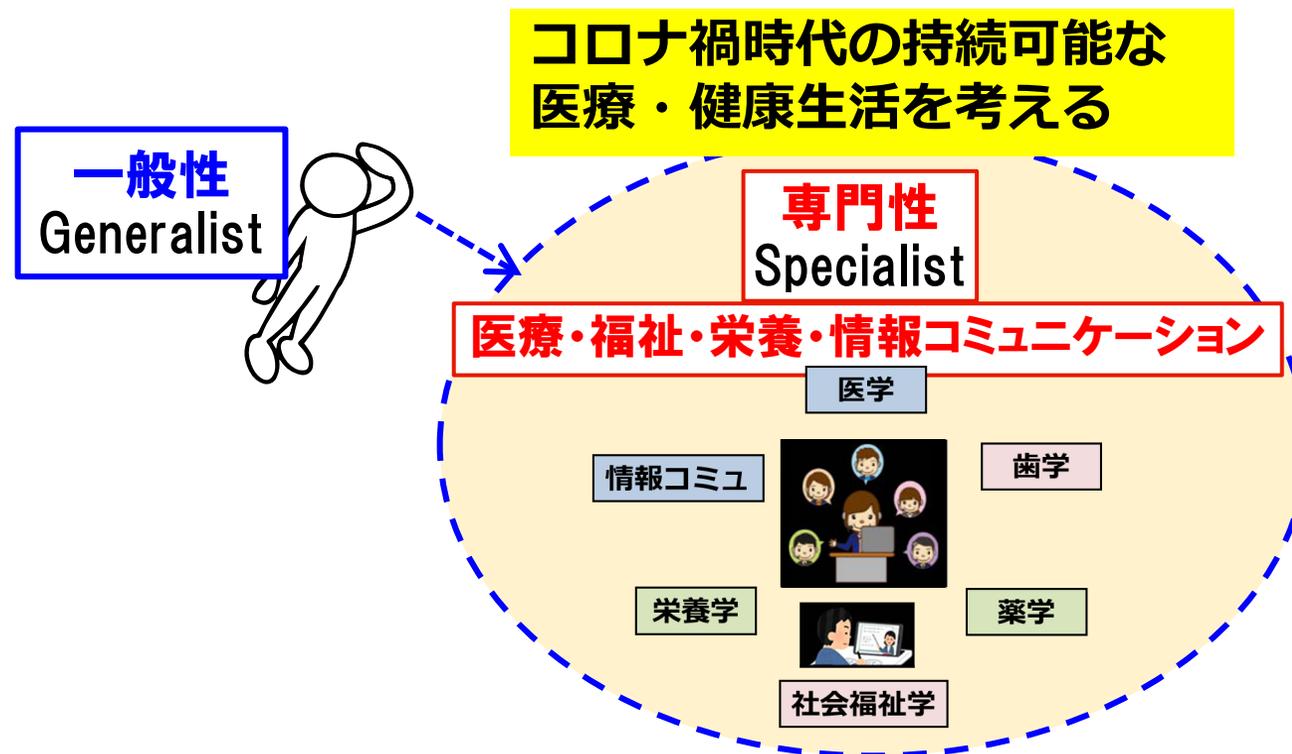
一般性と専門性

一般性: コロナ禍時代の持続可能な医療・健康生活を考え、解決するにあたり、チーム全員が知っておくべきこと

専門性: 特定の領域における高度な知識と実践性、および根拠を有する

他の専門と共有する部分を構築する

- 関連する**全体像**の理解
- **他の専門性の尊重**と協働
- **共通の倫理**を身につける



学生アンケート結果

達成できたこと

- この経験は新鮮でした。自分の専門外のこともたくさん知れて**知識の幅が広がった**。
- コロナという共通のお題に対して、こんなに**視点が違う**とは思わなかった。そして、**それぞれの視点を生かしてグループオリジナルの解決策を検討する**のはとても**有意義**だった。
- 自分の**知らない世界は広い**ことを実感した。
- **様々な視点からの意見・考えを取り入れた解決策**は、ニーズに合った包括的な支援や全人的医療にもつながると考えました。

改善すべき点と対応策

- お互いの専門性に対する理解が不十分だった。 → お互いの専門性を把握する。
(自分の専門分野を説明する)
- 学生のみがディスカッションをする場がなかった。 → ディスカッションする場の提供

上記を円滑に進めるファシリテーション



コロナ禍における問題をさらに掘り下げたり、強みを活かした解決策を検討できる。

今回の経験を生かした授業の進め方

2回目

ファシリテーターと
学生のディスカッション

ディスカッション
の方向付け

自己主導型学修

学生同士の
ディスカッション
(同期/非同期)

熟慮

3回目

ファシリテーターと
学生のディスカッション

リソース講義
(オンデマンド/リアルタイム)

ディスカッション
の深化

**変
革**

授業の再定義（Redefinition）

これまで想定されなかった能力、資質を引き出す授業

授業の改良（Modification）

対面授業では習得できなかったことが学べる

授業内容の拡大（Augmentation）

従来ツールの代用と、新たな機能が追加

**強
化**

対面授業の置換（Substitution）

機能的な変更はなく、従来ツールの代替

謝 辞

以下の先生方の協力と指導をいただきました。

東邦大学 医学部

大阪歯科大学 歯学部

北海道医療大学 薬学部

昭和大学 薬学部

北里大学 看護学部

日本社会事業大学 社会福祉学部

神奈川工科大学 健康医療科学部

明治大学 情報コミュニケーション学部

神奈川大学 法学部

廣井 直樹 教授

神原 正樹 名誉教授

二瓶 裕之 教授

山元 俊憲 名誉教授

中山 栄純 准教授

小原 眞知子 教授

原島 恵美子 准教授

川島 高峰 准教授

中村 壽宏 教授